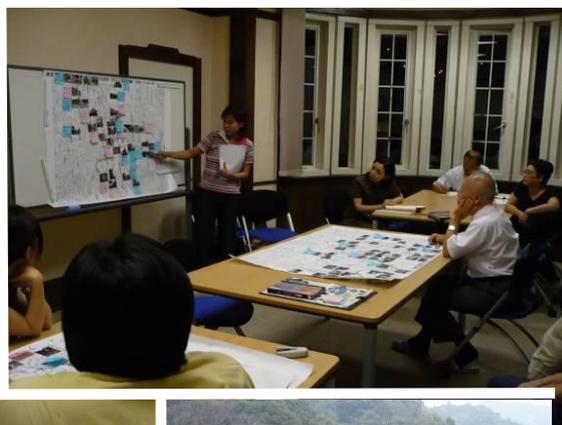
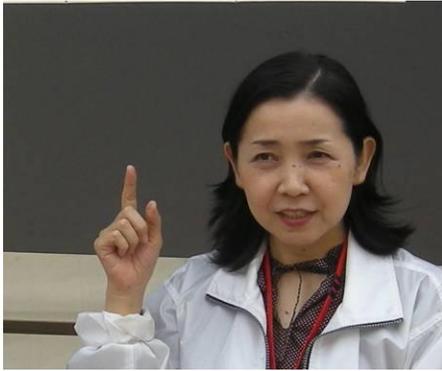


# 発見！ながさき遺産塾





塾長 川瀬 智子

### ■ 塾長コメント ■

～未来に向けて「発見！ながさき遺産塾」～

長崎では、歴史に彩られた建物や物語がまちのあちらこちらに溢れています。その中であって、人々の暮らしに身近で、長い間息づいてきた町屋や商店、まちの人や風習など、町の遺伝子となって静かに生きてきたものを見出し、大切に守り活かしていきたいと考えました。

そこで、現在も町屋が点在している中通り界隈に注目し、商店街でのアンケート調査を実施しました。その際に塾生各々が、これまで知られることのなかったこの町の出来事に目を丸くし、その時代の香りに包まれた一瞬はとても貴重な経験となりました。

今後も、更なる「ながさき遺産」探しを続ける予定です。「町の宝」と呼べるものが多くあることは、住む人達にとって町への愛着を深め、誇りをもって暮らしていける元気の種になることと思います。長い時間の中で培われた長崎の住まいの文化、暮らしの文化に触れ、学んでいきたいと思ひます。

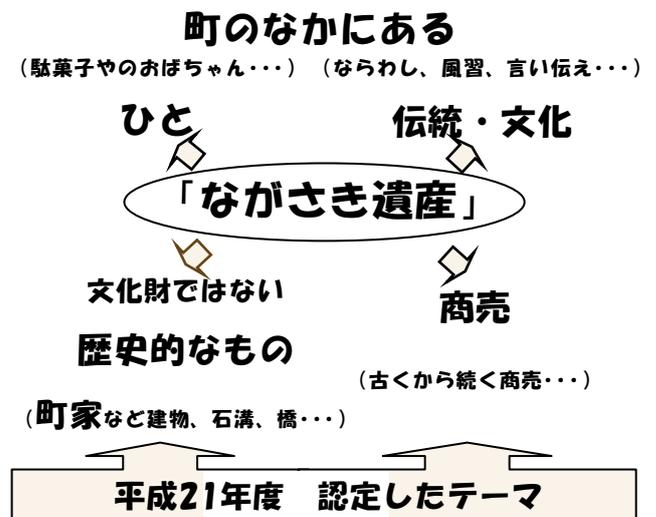
また、住まいや暮らしを支え、継承されてきた様々な技術、建物などを維持するための技術等も、守り活かしていくことが、大切なものを未来に繋げるためには不可欠なことだと考えています。

### ■ 塾の目的 ■

長崎らしさを感じさせる町はだんだんと少なくなっているように思います。その町らしさ(町の魅力)を守るため、残すためには何が必要なのか。「指定された文化財を守ればいいのでしょうか?」、そうではなく、町を構成し、継続してきた建物、商売(生業)、人が大事に守り、継承すべきではないのか。その建物、商売、人がうまく継承できれば、町も元気になるし、長崎らしい町が残っていくのではないかと考えています。

そこで、本塾では長崎らしさが残る町のなかにある、継承すべき建物、商売、人などを「ながさき遺産」(町の宝)として認定し、光をあてることで、町の人たちに大切なものである認識と継承していく意識を持ってもらうことを目的として、町の外に住む市民の目線で調査(ヒアリングも含む)・認定し、その活用等についても町の方たちと一緒に考え、少しでも実践したいと考え活動しました。

### ※ながさき遺産とは・・・



## ■ 塾の研究・活動内容 ■

この塾では、ながさき遺産の認定、マップ(冊子)の作成、及び遺産の活用を地元の人たちと一緒に考え、少しでも実践することを目指しています。

まずは、今年度、ながさき遺産を発掘する地区を決めるために、「浦上地区」と「中島川・寺町周辺地区」を選び、サーベイ等を行いました。

その結果、「中島川・寺町周辺地区」のなかでも、通っていて気持ちがよく、長崎らしさが残る「中通り周辺」をモデル地区にすることが決まりました。

その後は、町を構成してきた古くから残る建物や商売を選定するための資料探し、地元に入ってヒアリングを実施するための準備、ながさき遺産認定の基準づくりなどを行いました。

建物や商売に関する資料では、歴史文化博物館が所蔵する「大正 8 年・12 年・昭和 29 年の広告誌」や「昭和 30 年のゼンリン」などを入手し、現地との照合を行い、ヒアリングの結果も反映させて、「古い可能性が高い建物マップ」と「古くから商売が続いている店舗マップ」を作成しました。

地元のヒアリングでは、事前にヒアリングシートを作成し、塾生が手分けして 21 店舗の聞き取りを実施しました。このことにより、地元が知らない情報も聞き取ることができました。その一部は、長崎伝習所まつりにて、皆さんにお披露目する予定です。

「ながさき遺産」は、建物(80 年以上経過)、商売(55 年以上経過)編として 20 件を超える認定を予定しています。

## ■ 塾活動の成果 ■

まずは、ヒアリングを通して地元の各店舗や中通り商店街の方々と交流ができたことが大きなことでした。

有田町の研修へも地元の方々が参加され、そのことがきっかけとなり、町の宝として認定する「ながさき遺産」をどう活用していくか一緒になって考え、長崎伝習所まつりでは一部実践するところまで進んでいます。

そのような意味では、「ながさき遺産」の認定をするという私どもの塾の行為が、町の人たちを少しずつ動かすきっかけになったと言えると思いますし、この動きがまちづくりに進めていければと思っています。

塾の成果としては、

- 1)古い建物、商売が続く店舗のマップ
  - 2)ヒアリングシートと一覧表
  - 3)「ながさき遺産めぐりマップ」
  - 4)ながさき遺産の認定
  - 5)伝習所まちづくりでの遺産めぐりの実施
- ですが、今後、更なる「ながさき遺産」の発掘、活用方法の検討、実践を行っていきたいと考えています。

## 発見!ながさき遺産塾活動記録

日 時	場 所	内 容
平成 21 年		
5 月 11 日(木) 18 : 30~	メルカつきまちホール	開所式、第 1 回塾会議 自己紹介、塾の概ねの方針説明 「浦上地区」「中島川・寺町周辺地区」の 2 地区の町歩きを行うことの決定。
5 月 24 日(日) 13 : 30~	中島川・寺町周辺 	第 2 回塾会議 「中島川・寺町周辺地区」を歩き「遺したい風景、もの」「このまちに馴染まないもの」等を写真に収め、場所を地図に落とす。  「中島川・寺町周辺地区」まち歩きの様子
6 月 4 日(木) 18 : 30~	市民活動センター 「ランタナ」	第 3 回塾会議 まち歩きで撮った写真の地図への貼り込み、コメントの作成、各班(4 班)発表
6 月 21 日(日) 13 : 30~	浦上地区 	第 4 回塾会議 「浦上地区」を歩き、写真に収め、場所を地図に落とす作業。  浦上地区まち歩きの様子
7 月 2 日(木) 18 : 30~	市民活動センター 「ランタナ」	第 5 回塾会議 「浦上地区」のまち歩きで撮った写真の地図への貼り込み、コメントの作成、各班(3 班)から発表
8 月 5 日(水) 18 : 30~	市民活動センター 「ランタナ」 	第 6 回塾会議 地区の絞込み、今後の活動内容の検討 中通りをモデル地区にする場合の活動内容の検討(職人探し、建物・商売へスポット、ながさき遺産の基準案と探し方) 今後のスケジュール(案)について  まち歩き調査発表の様子
8 月 19 日(水) 18 : 30~	市民活動センター 「ランタナ」	第 7 回塾会議 今後の塾活動の方向性・地域に入ることについて、マップづくりについて

日 時	場 所	内 容
9月3日(木) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」	第8回塾会議 マップづくりの対象地域の絞込み、 地元へ入り方の検討
9月28日(月) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」	第9回塾会議 「塾の趣意書」と「アンケート(案)」の検討、 次回作業の内容の確認
10月14日(水) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」	第10回塾会議 ヒアリングのエリア決め、 商売の経過を調べるため昭和29年、大正8・12 年の商店街のデータを一枚の地図に落とし込む。
11月4日(水) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」	第11回塾会議 前回より引き続き地図データ作成
11月28日(土) 15:00~	中通り商店街 	第12回塾会議 ヒアリングシートに基づき、中通り商店街のうち、 商売または建物が50年以上続いていると推測さ れる商店を戸別訪問  戸別訪問によるヒアリングの様子
12月8日(火) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」	第13回塾会議 11/28・12/5 ヒアリングの結果報告 今後の活動内容の確認
12月21日(月) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」	第14回塾会議 11/28・12/5 ヒアリングの結果報告(前回の続き) ながさき遺産認定基準の検討 長崎遺産認定証のイメージについて
平成22年		
2月3日(水) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」 	第15回塾会議 「ながさき遺産」認定基準等について 伝習所まつりの内容について 来年度塾継続について
2月18日(木) 18:30~	アマランス 和室	第16回塾会議 長崎伝習所まつりパネル作成作業
2月25日(木) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」	第17回塾会議 長崎伝習所まつりパネル作成作業 ながさき伝習所まつり企画(案)の検討 今後の進め方
3月20日(土) 11:00~	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり ながさき遺産認定式、パネル展示、「ながさき遺産」 マップ配布、中通りでの「ながさき遺産」めぐり



## ■ 有田町への研修 ■

### ～有田のまちなみを訪ねて～

日時：平成22年1月31日(日)

場所：佐賀県西松浦郡有田町

参加者：16名(塾生(事務局含む)：12名、  
中通り商店会振興組合：4名)

「ながさき遺産」の今後の活用と、まちづくり活動団体との意見交換を行うため、佐賀県の有田町を研修の場所としました。有田町は全国的にも「陶器のまち」として認知され、国の重要的建造物郡保存地区にも選定されています。春の陶器市には各地からの焼き物ファンが訪れる賑やかな町並みを想像できます。陶器市には訪れたことがある塾生もいましたが、有田の町並みをあらためて見てみるといたる所に「有田遺産(人、物、文化)」なるものを発見できました。

朝、市民会館横を出発し、有田町到着後、まず地元「アリタ・ガイド・クラブ」の中村・山口両氏の案内で、日本磁器発祥の地であり陶石の採掘場所である「泉山磁石場」を視察し、「有田」の原点を知りました。その後、江戸期の雰囲気の色濃く残るトンバイ堀(登り窯を築くための耐火レンガの廃材や陶片を赤土で固めた堀)の裏通りをさるきました。通りには往時のまち筋が残り、静寂な「有田」の雰囲気を味わうことができました。

また、道中の「辻精磁社」では宮内庁御用達の磁器を手にすることができ、塾生たちも興味津々でカメラに納めていました。



普段の「有田」は、陶器市の喧騒とは裏腹にとっても静かでしっとりとした佇まいです。

まち歩きを終え、昼食を兼ねて「有田町づくり女性懇話会」との意見交換を行いました。昼食場所も「旧松政別邸」という迎賓館的な民家をご用意いただき、季節柄ちょっと早めの「雛御膳」提供していただきました。器はもちろん有田焼でした。

「有田ばどがなかせんば！」の思いで立ち上げたリーダーの西山会長のもと、30名の会員を有する会に成長しています。しかし、常時の活動は8名程度の参加だそうです。

できることを、できる人が、できる分だけやる。このまちに住んでもいない女性グループが、このまちを活気溢れるものにしようとして立ち上がり、仲間を作り、活動し、自ら感動を得ている姿に感銘を受けました。



今回の研修では、この塾の活動フィールドである地元中通り商店会振興組合の方々の参加もいただき、地元でできる「何か」を掴んでいただいたのではなかったかと思います。

今後は、「ながさき遺産」がまちに残り、みんながそのまちに誇りを持ち、もっと好きになるように、地元の方々と一緒になった活動にできればと考えます。

最後に、今回の研修で大変お世話になりました NPO 法人「アリタ・ガイド・クラブ」、「有田町づくり女性懇話会」の皆様へ感謝し、報告いたします。

## ■ ヒアリング結果 ■

日時：11月28日～12月15日

件数：ヒアリング実施商店数 21件

方法：ヒアリングシートをもとに、中通りに面する、商売または建物が50年以上続いていると推測される店舗を戸別訪問した。

### ～ヒアリングの内容～

- いつから住んでいますか。
- 建物はどの時代に建ったものですか。
- ご商売はいつ頃から続いていますか。
- まちのエピソードなど教えてください。
- このまちのことは、〇〇さんに聞けばよくわかるという人を教えてください。
- まちの言い伝えや慣わしがあれば教えてください。
- 古い写真、ものなどありませんか。

### ～ヒアリングで分かったこと～

#### 1) 住み始め、商売を始めた時期

- |                 |     |
|-----------------|-----|
| • 江戸、明治期        | 5件  |
| • 大正期           | 1件  |
| • 昭和30年(65年前)以前 | 11件 |
| • 昭和30年以降       | 3件  |
| • 不明            | 1件  |

#### 2) 建物はどの時代に建ったものですか。

- |              |    |
|--------------|----|
| • 江戸、明治期     | 5件 |
| • 大正期        | 3件 |
| • 昭和(戦前)65年前 | 3件 |
| • 昭和(戦後)     | 6件 |
| • 不明         | 4件 |

#### 3) 家にある古いもの

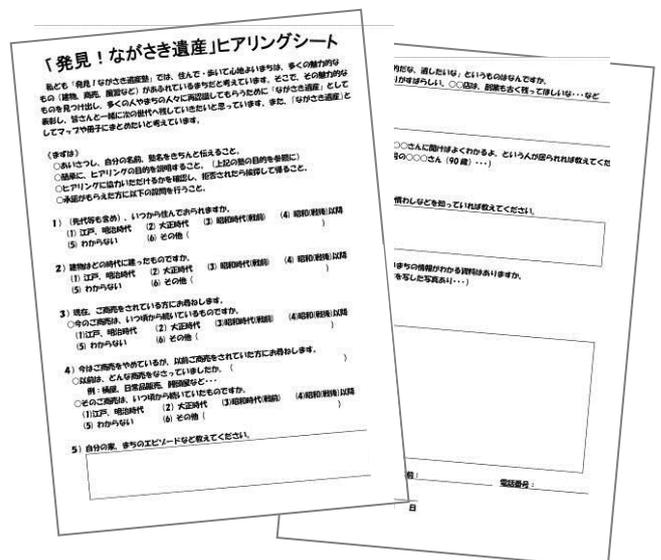
- 江戸期などの古い看板がある。
- 江戸期の商売にまつわる掛軸がある。
- 籠甲で作ったロシア船がある。
- 商売で使っていた古い秤(明治期)、カステラ焼道具(江戸期)、あんこ練り器、餅つき道具が石臼、杵などがある。
- 煉瓦塀の抜け道がある。
- 床下に防空壕がある。
- 先代のユニークな石像がある。
- 武士をかくまったという天井裏部屋がある。

などなど・・・

#### 4) その他いろいろな話・・・

- 元日は日本髪を結うため、明け方5時・6時まで店が開いていた。また、和服で諏訪神社に行く人で賑わっていた。
- 朝は朝星、夜は夜星といわれ、昔は朝は早くから夜11時ぐらいまで仕事をしていた。
- 戦後すぐに開店した当時の内装は、アメリカ式の木製で洋風の丸テーブル、イス、床はタイル張りだった。
- 昔、ダンスホール、ローラースケート場などが近くににあった。

場などが近くににあった。



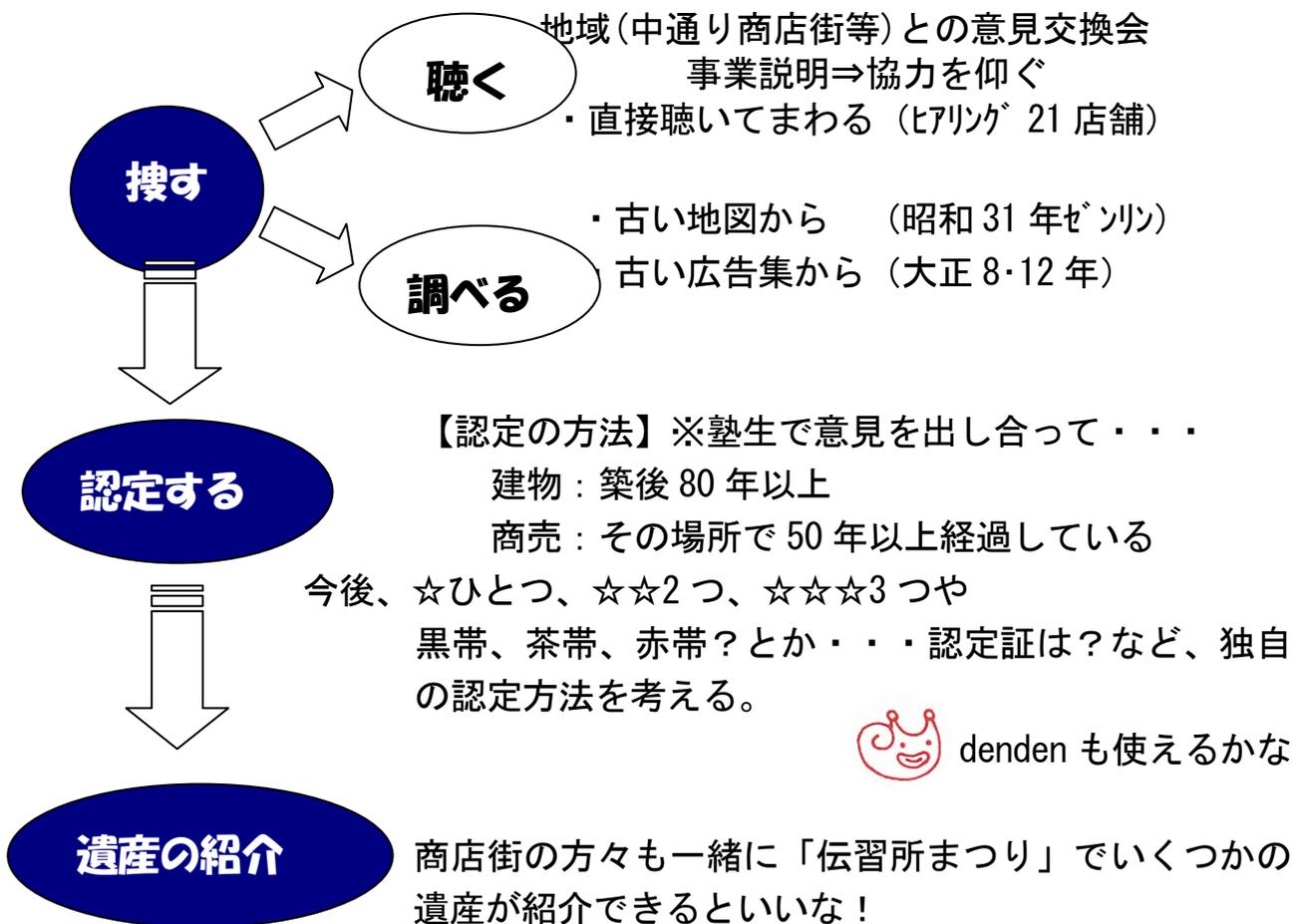
ながさき遺産を発見するための手法を考えてみた…モデル地区は**中通り**に決定！

## 発見！ながさき遺産

キーワードは「<sup>いま</sup>現在に続いているもの」

☆ **建物** **家業** **その他**

- ➡ 続いているものを搜してみよう！
- ➡ 見つけて、認定しよう！
- ➡ 地図に落としてみよう！



### 効果

- ・新しい魅力の発見につながる
- ・「続けること」への元気になる
- ・地域の活性化につながる

## ■ 塾生の感想 ■

(阿多清子)

活動を通して、中通りの持つ、「ヒューマンスケール」と「昔からある商店街特有の、どこか懐かしい風情」を大事にしていくべきと感じました。また、それを残していくためにはこれから町並みをどのように「更新していく」のか、技術的な面から、具体的に考えていく必要があるのではないかと思います。

(神近幸司)

地域の活性化に何か役立つことがないかとの思いで、この塾で活動させていただきました。市民目線で地域の方々と少しですがお知り合いになれたことに感謝しています。また、有田の研修で懇談していただいた、まちづくり団体の皆さんの「なんかしたかよね！」の思いと行動力に感銘を受けました。

(国松 実)

住んでいる町を振り返って時代をさかのぼって見ると隠れたもの、思いがけないものその町の歴史の息吹きを発見する。

そしてそこからお互いに語り合いが芽生えて町おこし、町の活気をつくる元が生まれる事がわかる。

(竹中 梓)

建築に対する知識がなく、ついていけるか不安でしたが、平和町と中通りのまち歩きを行い、勉強していくにつれ、あまりに知られていない「歴史的建造物」を活用・継承するにはどうしたらいいのかということに興味を持って活動することができました。

(豊 美弥子)

建築士会をはじめ、異業種の方々ともまちが元気になる方策や、景観のこと、塾の方向性など様々な意見を交換できたことが何より収穫となりました。

また中通り商店街の皆様が活動に親切に協力してくださり、まちへの想いの強さを感じました。

(中田佳代子)

平和公園周辺と中通り周辺の町歩き、有田訪問など、実際に町を訪れて行うフィールドワークの活動がとても楽しかったです。

自分の目と足を使って町を歩いて、話を聞くことによって、小さな発見がたくさんありました。小さな発見の積み重ねがまちづくりのヒントになっていくと思い、来年以降の活動が楽しみです。

(濱田 勇)

ながさき遺産塾の対象は中通り、建物的には、あまり、残そうとするものは少ない。あの辺を見渡すと、三つの通り(寺町通り、中通り、中島川通り)、それぞれの通りを構築物と考え、それぞれの通りの調和と対比が面白い。構築物を活性化することで構築物が際立ってくる。そのため、空家を少なくする。これ以上構築物(通り)の破壊を防止する。

(原田 宏子)

“まちを歩く” “まちの人にヒアリングを行う” という行動は、そまちのことを知るためにとても重要なことで、仲間が居て初めてやれることだと実感した。

一人の力は小さいけれど、みんなでやればできることは大きい。

それと同時に、みんなでやる難しさも体験した。何につけても学ぶ場所だったと思う。

(峰 敏江)

「ながさき遺産塾」というネーミングに引き寄せられて～活動の最初は、長崎で残しておきたい場所選びより始まり、「長崎さるく博」で県内外の人が数多く参加した中通り商店街にスポットを当ててみました。昔の面影を残して、しかも新しい街づくりに力を入れている商店街の心がそこここに見られる、今も昔も心地良い新と古が適当に混在する心豊かな街が心に残りました。来年はどこにどのように活動できるのか楽しみです。

(宮下雅史)

各地区のまち歩きを通して、あらためて長崎の歴史の深さやすばらしさを実感しました。

(山北 守)

塾に参加して、地元との連携が大切であることを痛感しました。「有田町づくり女性懇話会」は頑張って行政との協力は出来始めたものの、地元の店舗等との連携が少なく悩んでいるとのことでした。やはり、地元を巻き込んだなかで、進めていくことによって、地元の意識が変わるし、その動きがまちづくりに繋がっていくと思います。



中通り周辺のながさき遺産候補 (建物編)



中通り周辺のながさき遺産候補 (商売編)

## 発見！ながさき遺産塾

塾長	川瀬 智子				
1	阿多 清子				
2	江頭 隆				
3	神近 幸司				
4	国松 実				
5	小林 英則				
6	小武家 雄康				
7	白鳥 純子				
8	竹中 梓				
9	鉄川 進				
10	豊 美弥子				
11	中田 佳代子				
12	濱田 勇				
13	原田 宏子				
14	峰 敏江				
15	宮下 雅史				
16	山北 守				
17	山本 宗男				
				事務局員	まちづくり推進室 松尾 今日子